

2020 年度事業活動報告 2020 年 10 月 1 日～2021 年 9 月 30 日

0. 2020 年度の助成事業概況

助成した、または運営中の基金は 14(休眠預金助成 2 つ、47 コロナ助成 2 つを含む)。このうちコロナ禍の非営利活動への助成を行う基金が 4、2018 年 9 月発災の胆振東部地震被災地支援活動支援のための基金が 3 つでした。2020 年度の支払い助成金の総額は 7226 万円でした。

年度(10～9月)	経常収入	支払い助成金
2015	178,549	1,040,000
2016	517,412	3,197,501
2017	2,649,757	3,795,258
2018	34,100,288	12,021,711
2019	9,890,089	14,499,000
2020	84,121,972	72,261,270

1.助成実績

休眠預金等活用法による助成については、別途項目立てます。

北のNPO基金の全体像は、別紙資料をご覧ください。小さな基金を目的や依頼に応じて造成するために、基金数が増え全体像をつかみにくいというご意見をいただきました。NPOの活動やニーズが多様であることから、ある程度基金数が細分化され増えるのは仕方ない面もありますが、目的を達したらすみやかに運営を終了するなど、管理業務を増大させない工夫も認識しています。

1)越智基金・市民活動支援基金

一般公募により、道内のNPO法人・市民活動団体への助成を実施しました。今年は7~10団体の採択を予定していましたが、予想を大きく上回る26団体から申請があり、選定委員会および理事会で協議のすえすべての団体に助成し、コロナ感染症の影響がある中で活動する市民活動の再スタートを後押しすることとしました。

応募総数 26 団体 助成決定団体:26 団体 助成総額:137 万円

2) 北海道いぶり東部地震及び台風 21 号北海道内被災地支援基金(いぶり基金)

今年度第 8 回の助成を終え、基金残額が事実上ゼロとなりました。寄付募集を中止し、以後は「北海道災害復興支援基金」がその役割を引き継ぐこととなります。

いぶり基金は、北海道いぶり東部地震及び台風 21 号北海道内被災地における支援活動を支えるための基金です。

(一般助成枠)

助成決定団体 5 団体 助成総額:900,000 円。決算終了後の基金残額については、直前に予定されていた同趣旨のコープ 2018 年北海道地震ボランティア応援基金に繰り入れて助成することとします。その他の残額は北海道災害復興支援基金に繰り入れます。

(特別助成枠)

基金残額 201 万円。本年度は助成ありませんでした。北海道 NPO サポートセンターと意見交換をしながら中長期的観点による助成を目指します。

3)まちのプロジェクト基金

組織診断+クラウドファンディングを特徴にした、組織力向上を意図した新しい助成プログラムです。2019 年度は第 2 期の公募を実施、2 団体がエントリーし採択されました。寄付募集を行ったのは 1 団体であり、もう 1 団体は辞退しました。

助成決定 1 団体 210800 円(寄付額は 248000 円)

参考)第 1 期実績:助成決定団体 2 団体 助成総額 4,283,711 円

4)コープ 2018 年北海道地震ボランティア応援基金

北海道生協連さまより、胆振東部地震被災地における NPO・ボランティア団体による支援活動に対する助成を目的に造成された冠基金です。今年は 3 年助成の 3 年目となりました。3 年間でおよそ 900 万円を助成しました。

助成決定 7 団体 助成総額 125 万円 基金残額およそ 15 万円

基金残額は、選定委員会における「成果報告会や被災地活動の重要性を伝えてもらうような活動に当ててもらいたい」という意見に沿って活用いたします。

5) 厚真町子ども応援基金

匿名希望者様により造成された、胆振東部地震被災地である厚真町の子どもを支援する活動に助成する基金です。助成団体を指定する助成事業であり公募はしませんでした。実施団体からは年度ごとに事業計画を出していただき、助成金を拠出します。

2021 年助成額 185 万円、助成予定総額 500 万円

6)北海道災害復興支援基金コロナ特別枠

北海道災害復興支援基金として、寄付募集を行い、総額 30 万円の寄付をいただきました。採択 5 団体にグループインタビューを行い、コロナ禍の NPO 活動について伺いました。助成をもって一区切りとして、寄付募集を停止しました。

助成 5 団体、助成総額 27 万円

7) 47 コロナ基金通常枠助成

コロナ禍で運営体制を見直し変化を目指す NPO に助成をします。伴走支援者に委託費をつけることができるのが特徴となっています。

助成 2 団体、助成総額 71.9 万円

8)47 コロナ基金医療助成

公益財団法人さなぶりが運営する「47 コロナ基金」に対して、全国の医療機関への寄付の申し出があり、同基金に参加している当会が北海道の医療機関への助成配分を担うことになりました。北海道内各地の NPO 支援センターのみなさまに、医療機

関についての情報提供を受け、旭川、帯広、函館の合計 5 つの医療機関への助成が実現しました。

助成 5 医療機関、助成総額 649 万円(11 月までに完了予定)

2. 個人や団体等からの基金の原資を増やす下記の活動を行いました。

1) 各基金の寄付額は以下の通りです。

基金名	金額 [円]	備考
越智基金	0	寄付受付を終了し、市民活動支援基金に移行します。
北のNPO基金 【市民活動支援基金】	290,400	越智基金の後継と位置付けられる、市民活動向け・用途限定なし・少額助成を意図した基金です。
コープ 2018 年 北海道地震ボランティア応援基金	0	北海道生協連様により、胆振東部地震被災地の活動を支援するために造成された冠基金です。総額 900 万円、寄付募集はしません。
いぶり基金	117,510 円	胆振東部地震被災地における NPO 等支援活動のために造成されました。寄付募集は 2020 年度までで終了しました。
いぶり基金特別枠	0	バイナンス様の寄付により胆振東部地震被災地の中長期的支援のために造成されました。総額 500 万円、寄付募集はしません。
厚真町子ども応援基金	0	匿名様より、胆振東部地震被災地で活動する団体を指定した冠基金です。総額 500 万円、寄付募集はしません。
Club Med Tomamu	0	「Green Beats Tomamu Hokkaido」の収益金を活用した、胆振東部地震被災地支援活動団体を指定した総額 1276000 円の冠基金です。寄付募集はしません。
宮本英基金	0	宮本氏による野外体験活動を行う団体への助成を行う基金。総額 330 万円、寄付募集はしません。
まちのプロジェクト基金	249,000 円	2021 年以降第 2 期寄付集めの予定
東日本被災者支援基金	0	運営終了
北海道災害復興支援基金	262,745 円	いぶり基金の後継と位置付けられる、平時から災害に備え、支援団体の活動を支える基金。ヤフーネット基金に登録中(いぶり基金のかわりに登録)。
北海道災害復興支援基金コロナ特別		コロナ起因により影響を受けた市民活動やコロナ感染症対策活動への助成目的

		の基金。
ハンドくんファンド	487,772	北の NPO 基金の運営自体を支援していただくために造成された基金です。ヤフーネット基金登録中。
合計	1,407,427 円	

3. 北のNPO基金の活動

■北のNPO基金の専用サイトの運営のほか、北海道災害復興支援基金、いぞう寄付の窓口のサイトを運営しています。月あたりのページビューは北のNPO基金で700あまりです。

SNSは、ツイッターが70フォロー、フェイスブックは北海道NPOサポートセンターと共用しておりおよそ500いいね、北海道災害復興支援基金としてのツイッターがおよそ40フォロー、フェイスブックいいねが150ほどです。

昨年から引き続きヤフーネット基金に北海道NPOファンドの運営支援をしていただく「ハンド君ファンド」、また、北海道災害復興支援基金を登録しています。

4. 認定NPO法人北海道NPOファンドとしての活動

1) 税制優遇措置の認定を5年間更新

2021年5月に、札幌市より認定NPO法人の5年間の更新の通知を受けました。指摘の多くは対応しておりますが、会員についての規程や、業務委託、謝金額についての対応は、今後検討すべき事項です。

2) 企業との連携

小樽の企業から、自動販売機を活用して、北海道災害復興支援基金への継続的寄付をしたい旨問い合わせをいただき、当会理事2人が説明に伺いました。年度末までには実施にはいたっていませんが、引き続き検討している旨の返事をいただいております。

3)休眠預金活用に関わる活動

・一般財団法人日本民間公益活動連携機構の「新型コロナウイルス対応緊急支援助成」の資金分配団体として「北海道リスタート事業～社会的居場所を失った人に新たなつながりを」を実施。

2020年7月に、休眠預金の民間公益活動への活用を管理する一般財団法人日本民間公益活動連携機構の「新型コロナウイルス対応緊急支援助成」に内定、8月から公募開始しました。北海道NPOサポートセンター、北海道総合研究調査会との連携事業です。

合計11団体におよそ5000万円を助成します。単年度事業で、事業総額はおよそ6000万円。

採択団体は以下の通りです。

- 特定非営利活動法人大雪山自然学校 10月
- 特定非営利活動法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト 10月
- 特定非営利活動法人いぶり自然学校 10月
- 特定非営利活動法人みなと計画 10月
- 一般社団法人北海道ブックシェアリング 10月
- 株式会社PLOW 10月
- 特定非営利活動法人くるくるネット 1月
- 一般社団法人あったらいいね 1月
- 特定非営利活動法人こどもサポートふらの 3月
- 特定非営利活動法人なごみ 3月
- 特定非営利活動法人ねっこぼっこのいえ 4月

・休眠預金助成の2020年度一般枠資金分配団体に内定

コープさっぽろ、北海道NPOサポートセンターとの連携により、総額5000万円程度、北海道内の3団体への助成を申請し、日本民間公益活動連携機構に採択されました。2024年初頭までの事業になります。

<採択された団体>

NPO 法人いきたす

NPO 法人のこたべ

一般社団法人十勝うらほろ楽舎

4)2018年度、2019年度、2020年度年賀寄付金助成事業「非営利公益活動の集成的成果を拡大するための社会的インパクト評価促進事業」

非営利公益活動の分野で経営資源に乏しい団体が活躍するためには、直接的な協働だけでなく、住民をも巻き込んだ間接的な協働が必要となる。本事業はモデル団

体に対して、社会的インパクト評価を実施し「コミュニティにとって望ましい変化」が起きる道筋を示し、NPO等の自発的社会的インパクト評価の実施を促し住民参加につなげることを目指します。未実施部分については助成金を返還しました。2020年度は、継続4団体に対して評価を実施しました。

5) 新型コロナウイルス感染症対策活動団体支援協議会-行政とNPOの連携枠組みに参加しました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に対処するため、行政とまちづくり活動団体が連携し、一体となって助成の方向性を協議し、喫緊のニーズを踏まえた支援を迅速に進めることを目的に、2020年5月20日に設立。札幌市、札幌市市民活動サポートセンター、札幌チャレンジド、北海道NPOサポートセンターとともに運営メンバーとして参加。札幌市を対象としたさぽーとほっと基金助成の周知や広報などに関わったほか、北海道災害復興支援基金にコロナ特別枠助成を実施しました(1.参照)。

6) SIMI(社会的インパクトマネジメントイニシアチブ)賛同メンバー、全国コミュニティ財団協会正会員、全国レガシーギフト協会正会員として活動しました。

・SIMI(社会的インパクトマネジメントイニシアチブ)

社会的インパクト評価や組織評価は、助成事業やSDGsとの関連で語られることが増えており、当会としても、情報の収集や関連イベントの開催を検討しています。また2021年1月開催の、SIMIによるイベント「ソーシャル・インパクトデイ」に当会スタッフが登壇しました。現状当会は有料のメンバーシップではなく、賛同メンバーとして関わります。

・全国コミュニティ財団協会

47コロナ基金(さなぶり運営、全国コミュニティ財団協会協力)への参加が、主な活動でした。47コロナ基金は全国の地域に密着したコミュニティ財団による連携キャンペーンであり、各々の財団の規模の小ささを補う可能性があります。

【47コロナ基金助成事業を実施】

47コロナ基金北海道地区は、一般枠でおよそ90万円、医療支援においておよそ720万円の寄付をいただき当会に助成され、それぞれ2団体、5医療機関に配分する予定です(21年11月までに完了見込み)。

・全国レガシーギフト協会

遺贈寄付の相談窓口業務を実施。今年7月には、京都地域創造基金の可児氏をお招きしてミニセミナーを実施、また9月の遺贈寄付ウィークにはコミュニティ財団と一

緒に企画参加しました。各地のコミュニティ財団との連携企画が少しずつ実現した年でした。

5) いぞう寄付の相談窓口業務

全国レガシーギフト協会に加盟し遺贈寄付の相談窓口を開設しています。相談は2件ありました。専用サイトを開設し広報をしています。遺贈の相談だけでなくNPO解散についての問い合わせも予想され、北海道NPOサポートセンターとも連携しながらそれらの相談に対応します。超高齢化社会を迎え、独り身の方や高齢の方が社会や故郷に有意義に財産を活用してほしいという相談が増えていくことが予想されます。